会社概要

所 在 地：兵庫県姫路市白銀町 38 PY ビル 1F
業　　種：医療美容室
資 本 金：400 万円
設　　立：2014 年 7 月
従業員数：1 人

レゴリス メディカル ビューティー

http://regolith-mb.com

がん患者や脱毛症で悩む人すべてに
マンツーマンで施術を行う医療美容室。
先の見えない不安に打ちのめされそうな時でも、
抗がん剤の副作用で苦つらい時でも、
いつも前向きで頼れる増田さんの存在は大きい。

STEP 1 創業のきっかけ

最愛の父が突然がんに……患者との会話の中で感じた「ニーズ」

始まりは20数年前にさかのぼる。増田榮子さんがまだ見習い美容師として働き始めた矢先、働き盛りの父親が舌がんと宣告されたのだ。「父も家族も一体何が起こったのか……とにかく目の前が真っ暗になりました」。大きな不安と悲しみが押し寄せる中、辛い抗がん剤治療と14時間にも及ぶ大手術は見事に成功。退院後は、病院で月に1度開催されるがん患者の会に父の付き添いとして参加するようになった。再発への恐怖や同じ経験を共有できる仲間の存在は何よりも心強く、参加するたびに患者の生の声や実情に触れることができた。

ある日の患者会で、増田さんが美容師だということを話すと「どうか私の髪の毛も切ってほしい！」と女性患者たちに懇願されたことがあった。「抗がん剤治療中は頭皮のケアも難しく、何よりも髪が抜け落ちた姿で美容院には行けないという声がたくさんありました」と話す増田さん。次第に高まっていく要望に応える形で、いつの間にか患者会に行くとヘアカットを行うのが定例となった。そうして約20年もの間、代金を受け取ることなくボランティアをする気持ちで「自分にできること」を繰り返したという。「当時は、病気の方からお金なんてもらえないという気持ちがありました」。しかし増田さんの思いに反して、カットを終えた彼女たちが口を揃えて言うのは「遠慮なくお金を取ってくれていいのよ、むしろ私たちはそうして欲しいの」という言葉だった。

がんという特別な経験をしているけれど普通の生活がしたい、人生を楽しみたいというがん患者専門の美容院へのニーズがあることを実感した増田さん。シングルマザーとして子育て中でもあったため「私ひとりで父と母の役割を担っている。また、がんを軸にする以上は中途半端な気持ちではやれない」と考えていた。患者の気持ちに応えたいという責任感だけでなくビジネスとしてしっかりと収益をあげていくために、個人事業ではなく起業の道を選び、創業までの準備期間を1年と決めたという。患者にとって通いやすい場所を模索していると、がん関連クリニックのドクターから「うちの病院の近くに出したらどうだ」と背中を押され、姫路駅至近の便利な立地を出店場所に。席から移動せずにシャンプーができるヒーター付きのチェアなどに融資を利用し、全面バリアフリー、外からの目隠し効果のあるガラス窓など増田さんのこだわりが詰まった医療美容室「レゴリス」がオープンした。

STEP 2 事業スタート

美容師として外見のサポートをセラピストとして心のケアを

レゴリスは完全予約・2時間制のシステムを採用しており、カットやヘアケアといったサロンメニューに加え、オーダーウィッグや手持ちウィッグのカットなども行っている。また、患者の処方箋を参考に抗がん剤ごとのカレンダーを作成し、時期に合わせた最適なケアが提案できるのも増田さんならではのサービスだ。患者はここで家族にも言えない思いを吐露し、時には涙に暮れることもあるという。外見だけでなくメンタルサポートの重要性を感じた増田さんは、心理セラピストの資格を取得。ホスピス病棟のある拠点病院にセラピストとして赴くなど、美容師業務にとどまらないサポートを実施している。

レゴリスを訪れるのは、8割ががん患者、2割がアトピーなどの皮膚疾患を持っているという。「私なんかが……って消極的になってしまっている方も多いけど、病気だからと言っておしゃれも恋も諦めてしまうのはおかしい」と増田さんは力強く語る。そんな風に寄り添いながらも背中を押してくれる笑顔と人柄に癒され、噂を聞きつけて県外から通う患者も多いとか。

STEP 3 今後の展望

母として、経験者として、プロとして幅広い目線と活動で患者を支援

現在、姫路市内を中心に5病院と連携している増田さん。「抗がん剤の副作用が出る時期を少しでも快適に」と立ち上げた「タオル帽子の会」では、ボランティアを集い手作りしたタオル帽子を病院に届けており、闘病中の子どもたちの笑顔や喜びの声が大きなやりがいとなっている。「夢は医療美容室を全国に広めること、そして病院の中に店舗を構えること」。理髪店しか参入することができない法律をいずれ変えることが目標だという。さらに、海外で主流のがん患者向けのサービスやイベントを日本で開催することや、後継者の育成も計画中。いきいき働く母の姿を見た子どもたちは「やりたかったことやもんな」と応援している。

社長 Profile

レゴリス
メディカル
ビューティ
増田榮子さん

父のがんをきっかけに「がん患者のための外見と心のサポート」の必要性を実感。医療美容師としてがんと向き合う生き方を伝え、サポート活動を広めている。

Point of note

■ 医療美容室とは？

兵庫県にある「一般社団法人ランプス」が認定する世界初の制度。同法人の定義では「病気や怪我、又は先天的な容姿の問題から生じる精神的な狂うを和らげるための美容技術」とされており、ヘアーウィッグ、メディカルメイク、ネイルなどが該当する。認定医療美容師は徐々に増えているが、専門サロンはまだまだ少ないのが現状。

「かつらをつける前から脱ぐ瞬間まで」のコンセプトのもと、良質かつ適正価格でのウィッグ提供などのサポートを行う。

使わないタオルを持ち寄って作る「タオル帽子」。

どうしても設置したかった席移動不要のシャンプー台。

プライベートな相談もマンツーマンだからできること。

頭皮に優しく負担をかけないオーガニック薬剤を使用。

「過酷な抗がん剤治療のつらさを知っているからこそ
がんとともに生きる命に寄り添い、未来を見つめたい」